

## パイプ・イン・パイプ工法用 PN 形ダクタイル鉄管の規格改正について

### 1 経緯

パイプ・イン・パイプ工法用 PN 形ダクタイル鉄管には、これまで JDPG G 1046〔PN 形ダクタイル鋳鉄管〕と JDPG G 1051〔PN 形ダクタイル鋳鉄管（JP 方式及び CP 方式）〕の 2 種類の規格がありました。

JDPG G 1046 の PN 形ダクタイル鉄管は、JIS G 5526・5527、JWWA G 113・114 と同じであり、ロックリングを受口外面に設けた長穴から挿入し、セットボルトによってロックリングを挿し口外面に締め付ける構造でした。一方、JDPG G 1051 は、継手に抜け出し力が働いた場合にロックリングが管外面に絞られる構造であり、ロックリングの挿入やセットボルトの締め付けがなく施工性に優れ、また、継手が屈曲した場合の管外面へのロックリングの抱き付き性能にも優れる特長を有しており、さらに、押し込んで配管する場合の施工部品、持ち込んで配管する場合の曲管などが規定されていました。

今回、JDPG G 1046 に JDPG G 1051 を統合することにより、JDPG G 1051 の継手構造に統一、採用実績がなくなった受挿し短管を削除、耐水圧性の代替方法を追加、JIS、JWWA 規格との整合を図って表記などを見直し、平成 29 年 10 月 5 日付で改正しました。それに伴い、JDPG G 1051 の規格を削除しました。

### 2 規格改正の要点について

今回改正した要点は、次のとおりです。

- a) JDPG G 1046 に JDPG G 1051 を統合しました。
  - 1) JDPG G 1051 の継手構造に統一し、継手に抜け出し力が働いた場合にロックリングが管外面に絞られる構造としました。
  - 2) 直管（DG タイプ）及び曲管を追加しました。
  - 3) 施工部品のキャストバンドを追加しました。
- b) 採用実績がなくなった受挿し短管を削除しました。
- c) 直管の耐水圧性の代わりの方法として気密性と耐圧性の組合せを追加しました。
- d) JIS G 5526・5527、JWWA G 113・114 との整合を図って表記などを見直しました。

### 3 各技術資料の扱いについて

規格は改正されましたが、パイプ・イン・パイプ工法用 PN 形ダクタイル鉄管の使用方法的性質上、しばらく旧規格品が施工される場合が想定されます。従いまして、旧規格品に関する以下の資料については、当面の間（平成 31 年 3 月末頃まで）当協会ホームページに掲載致します。

（旧規格品に関する資料）

- ・技術資料「JDPG T36-1 ダクタイル鉄管によるパイプ・イン・パイプ工法 設計と施工」
- ・技術資料「JDPG T36-2 ダクタイル鉄管によるパイプ・イン・パイプ工法 設計と施工」
- ・接合要領書「JDPG W15-1 PN 形ダクタイル鉄管」
- ・接合要領書「JDPG W15 PN 形ダクタイル鉄管（JP 方式及び CP 方式）」